

# 巻 頭 言

国際教養学部長 伊 藤 進

中京大学教養部は2008年4月をもって国際教養学部としてあらたなスタートを切ることになりました。新しい学部として生まれかわるまでにはあまたの紆余曲折があり、まさしく産みの苦しみを味わいましたが、さいわいすべての教員の理解と協力が得られ、つつがなく学部生諸君を迎え入れることができたことを無上の喜びとするものです。

こうして国際教養学部が発足したとはいえ、しかしながらなかなかむずかしい運営を強いられていることもまた偽らざる事実であります。国際教養学部は学部生に専門教育を施すというあらたな使命を課されるのは言を俟ちませんが、全学にたいして責任ある共通教育体制をも維持向上していかなければならないからです。このいわば「股裂き」の状態におかれた私たち教員が専門教育と全学共通教育に向かって調和のとれたかたちで邁進することこそが、将来計画委員会カリキュラム改革部会の報告にもあるように、今後の大きな課題でありましょう。教養教育と専門教育の有機的連関をいかに促進していくべきかを考えるよすがとして、将来計画委員会教育部会は国際基督教大学（ICU）教授の日比谷潤子氏による講演会を企画しました。国際基督教大学が取り組んできた教学改革をスライドをまじえて具体的に紹介された講演は、これから私たちが学部をいかに運営していくかを考えるときに大きな示唆を与えてくれることでしょう。

専門教育と教養教育とを問わず、つねに考慮されなければならないのは、教育効果の向上と授業環境の改善です。FD教育改革委員会と協賛でおこなわれた経験交流会も今回で第8回を迎えることができました。他学部のみならず他大学からも講師を招いて、授業づくりについて多様な視点と経験が報告され、熱心な討論が繰り広げられました。私たちは授業改善のために今後も理解と経験を共有し、教育のあり方を研究していかなばなりません。

以上の講演記録を、将来計画委員会、ゼミ委員会等の活動報告とあわせて、ここに掲載します。私たちはこの1年間なにをしてきたのか、これからどこへ行くのか、その指針がここに見いだされることを願うとともに、個々の教員がこころをひとつにして学部運営に携わっていかれるよう期待するものです。

2008年4月